

BMB2010・男女共同参画企画ランチョンワークショップ開催報告

ワークショップタイトル：「男性の視点から見た男女共同参画」

日時：2010年12月7日（火）11:45～13:00

会場：第10会場（神戸ポートピアホテル本館地下1階・偕楽3）

企画：BMB2010男女共同参画WG

日本分子生物学会男女共同参画委員会：篠原 彰，杉本亜砂子

日本生化学会男女共同参画推進委員会：有賀 寛芳，小川 温子

BMB2010において男女共同参画企画ランチョンワークショップ「男性の視点から見た男女共同参画」を開催した。ワークショップおよびアンケート結果概要について以下に報告する。なお、ワークショップ全文、ワークショップで用いた資料およびアンケート結果は分子生物学会Webサイトに掲載した。（http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/gender_eq/ws2010.htm）
1) いずれも極めて興味深い内容なので是非ご覧いただきたい。

I. ワークショップ概要

【第一部】イントロダクション：「日本分子生物学会・日本生化学会における男女共同参画の現状」（第一部スライド資料）

杉本亜砂子（日本分子生物学会・男女共同参画委員長／東北大学）

第一部では、日本分子生物学会・日本生化学会における男女共同参画の現状についての数値データを紹介した。女性会員は分子生物学会 24.4%（学生会員 33.8%、正会員 19.9%）、生化学会 20.8%（学生会員 36.8%、一般会員 18.3%）であり、科学技術分野全体の平均よりは高いものの、役員の女性比率（2010年8月末時点）は5.3%（分子生物学会）、4.2%（生化学会）と低い点が課題である。役員の女性比率に関しては、分子生物学会の第17期理事会では30名中4名が女性となり、女性比率に改善が見られている。

次に、前回の年会から開始した年会演題発表者の**属性調査結果**についても報告した。ポスター発表者の女性比率は28.8%で学会員の女性比率と同等であったが、昨年の調査と同様、ワークショップ・シンポジウムスピーカー（8.5%）やワークショップ・シンポジウムオーガナイザー（5.6%）の女性比率は、30代～50代の幅広い年代にわたってポスター発表者の女性比率よりも顕著に低いことが明らかとなった。また、今回は一般演題登録者のうちの口頭発表希望者および採択者の比率も算出した（分子生物学会）。その結果、採択率（採択者／希望者）は男女でほとんど差がない（男性 43.1%、女性 42.1%）が、口頭発表希望者比率は男性よりも女性が若干低い（男性 34.2%、女性 28.7%）ことが明らかになった。

最後に、分子生物学会の属性調査が契機となり他学会にも年会発表者の属性調査が広まりつつあることを紹介した。各学会の調査結果から、遺伝学会や植物学会などではシンポジウム発表者・オーガナイザーの女性比率と会員女性比率がほぼ一致しており、女性の visibility 向上がすでに達成できている学会もあることが示された。このような事例は心強いとともに、分子生物学会内の変革の必要性を再認識させるものであった。

年会における女性の visibility を向上させるためには、女性会員自身が演題発表・口頭発表に積極的に参加することを心がけるとともに、メンターが女性研究者の学会参加を継続的にエンカレッジおよびサポートすることも必要だと思われる。シンポジウムオーガナイザーや年会企画委員会等の女性比率も意識的に引き上げていく必要があるかもしれない。今後も演題発表者の属性調査を継続することで推移を見守りつつ、対策についても引き続き検討していく予定である。

【第二部】講演：安藤哲也氏 (NPO 法人 ファザーリング・ジャパン) (第2部スライド資料)

Fathering Japan (NPO法人 ファザーリング・ジャパン) の安藤 哲也 氏の講演を聞き、その後フリートーク、質疑応答を、安藤氏を交えて行なった。ワークショップでは約180名の参加者があり、その後も50名程度が会場に残って議論に参加した。今回は、これまでのワークショップとは2つの点で大きく異なっていた。学会特有の視点で男女共同参画を見るのではなく、より一般社会からの視点でみること、また、男性の視点を取り入れることである。そのために、今回は安藤氏のための講演を聴くと言うスタイルになった。講演では、安藤氏の活動から始まり、男性が家事、育児に積極的に参加することが男のステータス、スキルアップの1つという考えを中心に話を頂いた。

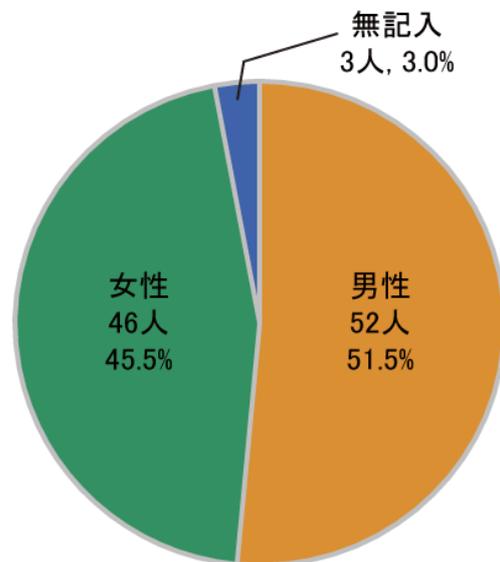
男性研究者の意識改革を意図した企画であったが、アンケート結果にもあるように、比較的男性の参加が多かったのが特徴である（以下のアンケート結果参照）。また、男性から比較的、好評価も得られている。一方、講演者の一方的な話であったこと（本人が希望したためだが）、研究者を取り巻く問題を全く扱っていないことに対する批判もあり、今後への課題を残した。今後はこのような企画が年会ワークショップに向いているかどうかも含め、議論するべきであろう。

II. ワークショップ後のアンケート集計結果（回収枚数 101 枚）

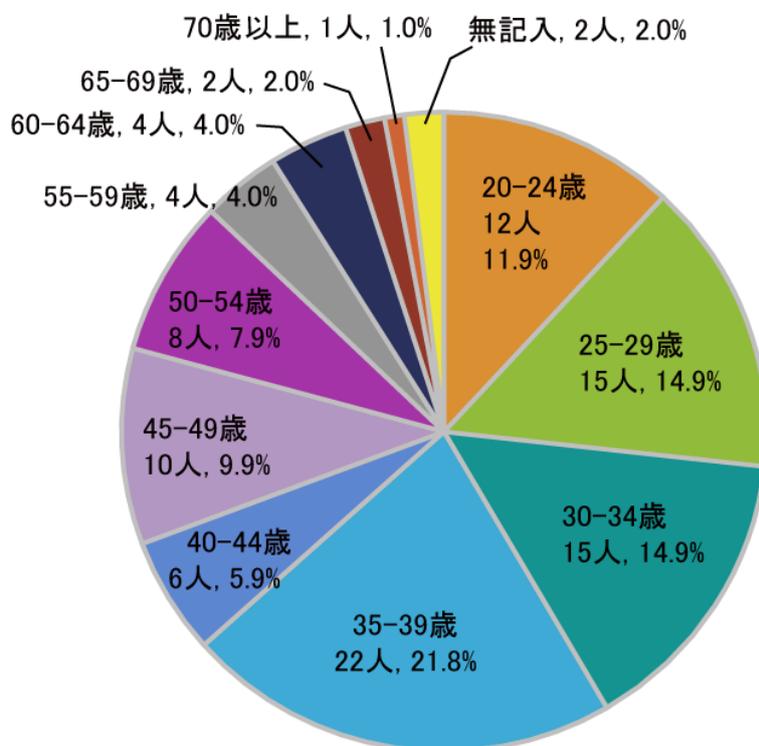
< 1 > 回答者の属性

・ 性別

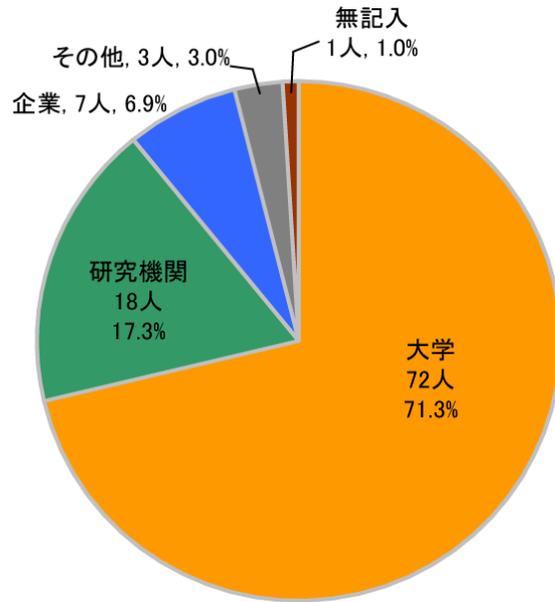
テーマが男性の育児参加だったということもあり、例年のアンケート回答者の男性比率（昨年は 27.5%）と比べ、男性が増加し過半数となった。本企画テーマへの男性会員の興味の高さが示されている。



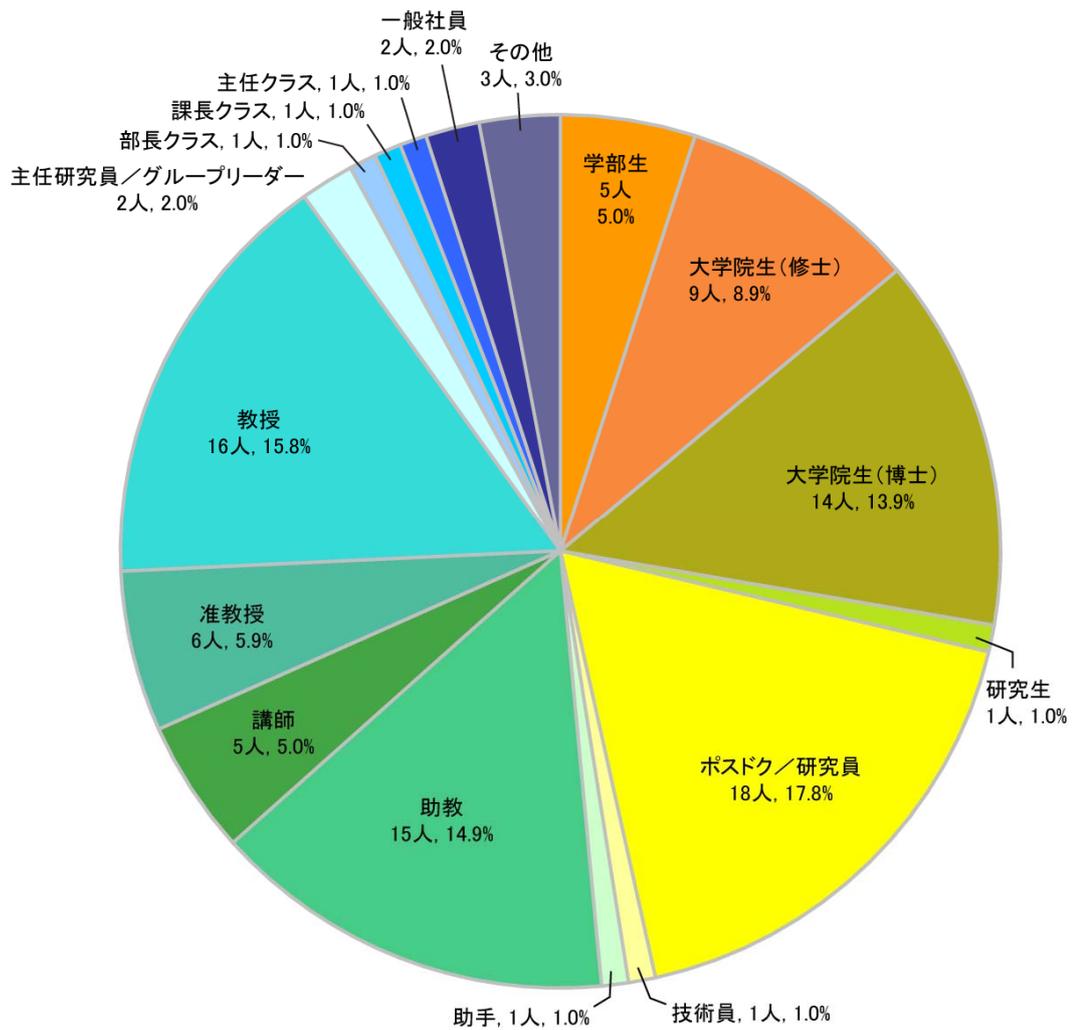
・ 年齢



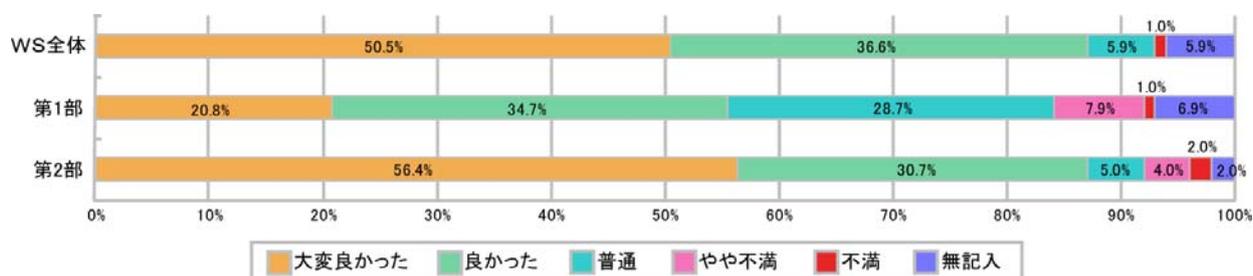
・ 所属 (人)



・ 身分、職階(人)



< 2 > 今回のワークショップの感想をお教え下さい。



自由記述：今回のワークショップに関する感想をお書きください。（一部抜粋）

【今回の企画への要望・改善点と今後の企画に向けて】

- ・ 男女共同参画の重要課題の1つとしては、必要なテーマだと思うが、他にもまだまだ取り上げなければいけないテーマもあると思うので、今後も続けていただきたい。（同様意見2名）
- ・ 男性の視点というのは、とても大事だと思うが、男女共同参画というと女性の方が興味を抱くと思う。男性にもっと参加してもらえるような取組みが必要ではないか。
- ・ 研究という分野の社会的特徴があると思うので、分野ごとの異なる男女共同参画の考え方、イクメンの考え方が必要と思う。
- ・ 日本の現状を知る上で、大変役立つ内容だった。研究に限定しない内容も（毎回はどうかと思うが）必要だと思う。

【1部について】

- ・ 他学会との違いに驚いた。数値で示されると説得力がある。（同様意見2名）
- ・ もう少し細かく聞きたかった。（同様意見2名）
- ・ 他学会と比べていた点が良かった。
- ・ 学会として、あるいは個人として、研究者という立場の男女がどのように研究を続けていくことを考えるのか、調査結果に基づく議論展開をして欲しかった。
- ・ ワークショップオーガナイザーの男女比は、現状把握に有意義だと思う。
- ・ 一般演題からワークショップへ応募できるように（昨年は出来たので良かった）WGからも働きかけていただけるとありがたいです。

【2部について】

- ・ ファザーリングの話はとても勉強になった。（同様意見5名）
- ・ 快活なトークで非常に分かりやすかった。（同様意見4名）

- ・ ファザリングの大事さを認識した。(同様意見 3 名)
- ・ 安藤さんのお話は大変面白かった。(同様意見 3 名)
- ・ 自分の家族のことを考えるきっかけになったような気がする。(同様意見 3 名)
- ・ 興味深かった。(同様意見 2 名)
- ・ 男性の意識改革が重要ということがよく分かった。それには、女性との協力が必要だということもわかった。(同様意見 1 名)
- ・ 社会的な問題や、男や女にある固定概念の話、様々な視点から知ることが出来ました。(同様意見 1 名)
- ・ いつもとは違った視点で話が聞けてよかったですと思います。日本人が持っている固定観念というものを変えていくのは、多くの時間を要すると思いますが、男性も女性も協力しながら家庭も大切にできる社会を作るのが必要なんだと思いました。
- ・ 大切な育児期をもっと意識すればよかった。
- ・ うちのダンナはスーパーイクメンで、二人で子育てしていますが、「二人+子二人」で社会から隔絶されているような不安を覚えることがあります。アカデミックはパーマネント職がない(少ない)ので、地域との関わりもないせいかと。子供が育ってくれば、小学校とかで他家族との交流があるかもしれませんが、今、つらい時期です。
- ・ うまく夫を導いて楽しく老後を過ごせるようにその過程を充実させたいです。
- ・ 国別出生率と社会情勢の関係グラフを見て、日本は世界から取り残されていることにあらためて驚いた。
- ・ 学会でこのような講演を聞いたのは、新鮮でよかった。
- ・ 支援内容について、もう少し細かい話も聞きたかった。
- ・ 今学会 1 番のヒット作かもしれません。これがバイテクセミナー並みの人の出入りでしたら、もっとめでたいのですが・・・。
- ・ 取りかえしのつかない年齢になっている身としては、感心するのみ
- ・ 父親の立場から、現状を踏まえて説明していただいたので、楽しく今の父、母の環境を知ることができました。
- ・ カウンセリング的な情報を提供していただいた。社会の仕組み等を考える機会となった。1 番の収穫は、コミュニケーション能力を高めるということを心から確信した。
- ・ 私もイクメンなので、共感できるどころ、また参考になるところが多かった。
- ・ 旦那に聞かせたかったです。ただ、現状説明にしかなりえないところが、この話題の難しいところでしょうか。
- ・ 比較的本業界の父親はイクメンが多いと思われるが、但、若いこれからの方には、良い話であったように思います。

- ・ おもしろかったのですが、研究者であるお父さんが、ここまで時間を作るのは実際大変だと思います。パパの意識改革よりも、どうすればそうできるのか、社会のシステム作りのほうが大切（先行）すべきではないか？
- ・ 面白かったが、あまり共感は出来なかった。
- ・ 現実的ではない。競争社会の世界に全く合っていない。
- ・ ネガティブな内容の提示で、相手の不安感をあおるセミナーであった。
- ・ あまりにも一般的な話で、学会にそぐわない。比較的時間が自由になる研究者は、この程度のことは既に行っている。はっきり言って、時間の無駄だった。
- ・ 税金を使って研究をやっている以上、定時に退社するのは責務を果たしていないのではないか？
- ・ 男性社会の中では、よく頑張っているのですが、苦言を言えば、「育児・家事と楽しめる人」という発想自体が非現実的である。「楽しみたい」「育児や家事が好きだが、それだけの時間的余裕がない」ことを改善すべき。「育児や家事を楽しめる人」という発想はボランティアである。一生懸命真剣にしていれば、そういう発想にはならないと思う。育児をするのが、本来当たり前で、それを声高に言うことに抵抗を覚える。

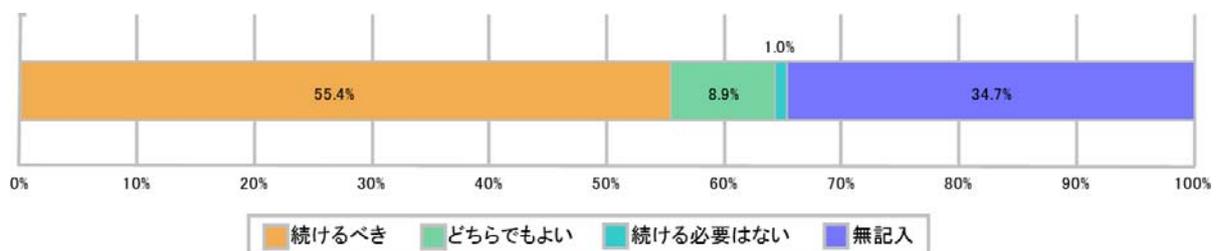
【全体的な感想】

- ・ 日頃忙しく過ごしているうちに研究することが生活の全てのように感じ、それ以外のことはあまり考える余裕がなくなります。今回のお話を聞き、育児・結婚も含め、社会とのつながりを考えさせられる機会となり、大変勉強になりました。（同様意見1名）
- ・ 男女共同参画という言葉から、いつも女性に対する話ばかりを思い浮かべていたが、今回の男性の立場での問題というのはとても新鮮で面白かった。
- ・ 参加者は女性が多かったが、男性が聞くべき話だと思いました。あまり聞く機会のない話で面白かったです。
- ・ 男性の立場から捉えることは大事です。男性が変わらなければ、男女共同参画も進まない。
- ・ 日本は男女雇用の点で、欧米に遅れをとっていると思う。今後、追いつくための1つの方法は、男女雇いを均等に、男性が育児に参加する必要がある。
- ・ とっても楽しいお話でした。男性にとっても女性にとっても良い機会だと思います。
- ・ 大変楽しかったです。日本では、育児が出来ない理由に男女問わず、労働者の権利が弱いために仕事を止められない、or 辞めなければならない、気がしています。こういうワークショップが広がって、そのようなことも改善すればいいなと思っています。
- ・ 貴重なお話が聞けてよかったです。素敵な笑顔で子供をむかえるパパとママになりたい

です。

- 一般の社会と研究の世界も基本は同じと思いました。
- 大変参考になりました。
- 現実的な問題がありますが、ワークショップ通りになればよいと思う。
- 子育て時代の方は、ほとんどの場合、ポスドクや任期つき教員など、不安定な職についている。実験をして成果を出さなければいけないという現状と子育てとの葛藤がある。しかも最近は、教員に女性を優先して採用しようという動きが活発で、ただでさえ少ない空きポストが女性に渡ってしまう。とすれば、男は深夜まで実験するしかなくなる。女性優遇の採用をすすめていくと、余計に男性は家に帰らなくなるのではないか？
- 現状説明について-感覚的には分かりますが、社会で起こっている問題と家庭で起こりえる問題とは分けて、因果関係を示しつつ解説してほしいです。そのような点が改善されるだけで、男女共同参画の種々の施策が社会の中でもっと効果的なものになると思われます。後半で、社会で起こる問題と家庭で起こる問題とが繋がっていることが解説されたのは、とても勉強になりました。
- イクメンを目指します。
- 現在未婚であるが、結婚、出産を望んでいる。また、その後も仕事を続けたいと考えている。周りに話すと、いろいろな考えを聞くことが出来ると同時に結婚、出産後に仕事を続けることについて、賛同してくれる人が思ったより少ないことにショックを受ける。そんな中、非常に参考になる話を聞くことが出来た。ありがとうございました。
- 頑張って広めて、知る機会を与えてください。
- 素晴らしいお話、ありがとうございました。大変励みになりました。

< 3 > 今後も年会において男女共同参画ワークショップを行うべきだと思いますか？



自由記述：今後取り上げて欲しいテーマをお教え下さい。（一部抜粋）

【学会の取組み】

- 分子生物学会が、女性研究者を増やすために行っている取り組みと成果。

- ・ 女性の発表者・オーガナイザーを増すのにどうしたらよいか？

【ワークライフバランス (WLB)】

- ・ 実際の研究者でモデルケース・ケーススタディとなる人の話 (同様意見 1 名)
- ・ 子育て、夫育て、これで成功しました。
- ・ 男女問わずに仕事と家庭の両立のヒントになるもの。
- ・ 職場環境を育児しやすくするには、何をどうしたらよいか？
- ・ 子育ての現状
- ・ 研究者に特にフォーカスした WLB のあり方について。
- ・ 実際に子育てしながら研究を続けている人達とのコミュニケーションが取れると嬉しい。
- ・ 分生、生化学の会員の男性で、育休をとった方の体験を知りたい。
- ・ 30 代後半以降の男性の考え方を考える方法。
- ・ 今回と同じテーマ
- ・ 研究に遅れを取ることなく、育児、出産をするための支援策、男女の考え方の違い、現状、改善の提案
- ・ PI の OS を入れ換えるようなテーマ。ポスドクでも育児、出産が後ろめたくなく行えるような意識改革をしてほしいです。
- ・ WLB を進めるための職場、社会制度の工夫。

【女性研究者】

- ・ 女性がなぜ、高い地位での比率が低くなってしまっているのか。女性側の意識の問題か、環境問題か。
- ・ 研究する女性のネットワーキング
- ・ 女性がキャリアを追求するためにしなければならないこと (気をつける点 etc.)
- ・ 研究職に就く女性の生活、考え方、現状を具体的な例で伝えてほしい。
- ・ 女性研究者のお話を聞きたいです。

【キャリア】

- ・ 効率の良い働き方について
- ・ 若手研究者 (ポスドク、若手、教員) に対するリーダー育成キャンプ 特に英語による有効な CV の書き方、Presentation の仕方、異分野交流等の内容を含む (海外ネットワークの作り方と昇進等に有益なように)

- ・ 女性のキャリアアップ。
- ・ 女性の就職支援
- ・ PI になるためには？（具体的な事例の紹介）

【施策】

- ・ 女性支援のプロジェクト（振興調整費等）の具体的な紹介（とっている大学・研究機関等による）
- ・ 種々の施策をより効果的なものにするを目的とした、社会への訴え方、働きかけ方について。
- ・ 行政（政府）の取組みの紹介。行政官に話して貰う。

【その他】

- ・ 研究者が男女問わず直面している問題を男女共同参画の視点から取り上げてほしい。
- ・ 今回ののが良すぎて、次回のテーマに悩みます。
- ・ 女性研究者を持つ男性の話
- ・ 男性が、女性が、どう意識すれば改善するのかという提言をしてほしい。
- ・ 研究という分野における、男女共同参画の推進には、何が必要なのか？
- ・ 共働き、育児分担が実現した上での男女共同参画推進。
- ・ ライフイベント込みで女性をどうやって社会で受け入れていくか？
- ・ 介護問題

【今回の WS への感想】

- ・ 男女共同参画には、男性も女性も OS の入れ換えが必要、というのは全くその通り。ぜひこの意識改革を続けてほしい。
- ・ 社会とのつながりを考えるよい機会と思います。結婚・育児との距離も縮まるよい機会かもしれません。
- ・ お弁当目当ての人でも、この機会に学会・研究における男女共同参画の進捗度（停滞度）や女性研究者の抱える問題・状況を知ってもらったり、考えるきっかけとなってくれば、意義はある。速効性はなくとも、継続は力なり。
- ・ 参加するまでは、毎年やる必要はないかと思うこともありましたが、やはり企画によって刺激を受けることがあるので続けていただきたいと思います。今までの思い込みの男女共同参画のイメージを塗り替えることもありました。
- ・ 興味深い。面白かった。

< 4 > 今後、男女共同参画委員会で行って欲しい事業やイベント等があればお教え下さい。

自由記述：今後、男女共同参画委員会で行って欲しい事業やイベント等があればお教え下さい。（一部抜粋）

【年会企画について】

- ・ 女性研究者の話が聞きたいと思いました。
- ・ 育児が始まる直前の人向けに、どのように、父、母それぞれ子どもを受け入れる心構えをするのがよいか。
- ・ 出産、育児と同様に介護（無期限なのに、仕事を休める支援制度が弱いと思うので）しながら仕事との両立を図るには、どうすればよいか？
- ・ 世代によって意識はかなり異なるはず。上の方の世代の意識に基づいた調査や考え方を広める機会に終始すると、若い人たちの意識を逆行させる可能性すらある。若手に勝手にではなく、ある程度企画を任せてみて、世代間交流も図りながら、新しい時代を模索してはどうか。
- ・ とても難しいですね。今回のような企画は、自分にとって有意義でした。なかなか普段はこういう講演会にいける機会がないので、良いと思います。
- ・ 男性が育児に参加すると、仕事の能率が上がる（いい影響を与える）ということを伝えてほしい。
- ・ 女性目線で、父親の育児について。

【その他】

- ・ 海外ネットワークの作り方の課題は、学会全体で考えてほしい。
- ・ 支援だけでなく、受け入れる社会側の体制を変える改革につながる何か。
- ・ 意見交換の場、Web による意見投稿など。
- ・ 男女が協力して築いていく社会への道
- ・ 女性PI、男性PI との懇談会（メンターに会う場として）

< 5 > その他、ご意見がありましたらご自由にお書き下さい。

自由記述（一部抜粋）

【今年の男女共同参画企画について】

- ・ 地域との関わりについて、自分から動かないと手に入るものではない（仕事を理由に“できない”人は“やらない”人）という指摘には、耳がいたく、でも本当だなと思いました

た。

- 毎年、男女共同参画企画に行っていますが、イマイチ、良い案が出ないというか、ハッキリしないと思っていましたが、今回のような社会での話、現実的な話が聞けてよかったですと思います。
- タイトル（男女共同・・・）を変えた方が良いと思います。
- 男性参加者の感想を聞いてみたいです。
- 大部分の参加者が研究職で、“残業”という概念すらない生物系の学会で、男性の育児を勧めるセミナーをするのは、新しい試みですが、人気がありません。
- 男性側の育児参加について取り上げてくださったのは、楽しかった。安藤さんのお話も面白かったです。
- 学会でこのような企画をするのはとても時代の潮流にあっていて、先駆的だと思います。
- 安藤先生のご講演の内容は「父親とはどうあるべきか」という問題というよりむしろ「人（男性？）が、人とどう接するべきか」という問題かと思いました。全体を通して、「いま何が問題で、何をどう変えるべきか」についての体系的なお話を聞けなかったことは残念でしたが、私自身が参考にしたいという例をいくつも聞くことが出来たのはとても勉強になりました。
- 今日の安藤さんのお話は、より多くの男女が聞けると良いと思いました。（同様意見 1名）

【その他】

- 会場からも意見があったように「子育て支援ランキング大学・研究所版」を作って公表する働きかけを国、あるいは学会で作って欲しい。
- 年会の用意したベビーシッター制度は、昼休みは子供を pick upしないとだめだったんです。だめです。使えません。
- 杉本さんのご発表は印象的。このようなデータをもとに学会の意思決定の場に（出てもよいのに）引っ込んでいるキャリア女性たちを座らせざるを得ない様にした。
- 学会、科学者の社会も一般と異なるのはおかしいとの感を抱かせる安藤さんのお話でした。
- WLB の観点から、というと、育児・介護と仕事の両立となりがちだが、独身の男・女の WLB はどうなのか。自由度がありそうで、実はないのでは？社会全体でシングルが増えているが、研究者ではそうなのか。例えば女性研究者支援に対する独身女性の意識、男性の意識を知る機会があるとよいのでは？ここでも若手の意識調査が大切。
- このような支援のなかった頃に出産等を考える時期がありました。今はこのような支援

があり、羨ましく思えます。男女に関わらず、研究に遅れることなく、出産、育児を進められる制度の推進を期待しております。どのように個人の意見は、国、制度に伝わるのでしょうか。様々な問題が起こる度に、“ぐち” → “意見” にする方法を模索しています。

- 女性の就職支援をもっと活発にしてほしい。以前助教を採用した時があったのですが、こどものいる女性でも良かったのですが、なかなか方法が分からなくて男性を採用しました。いい方法がないでしょうか。